

入選 秋田県 氏名非公開 (50 代)

私は約 7 年前から、障害年金を受給しています。

家族に、「夜中に苦しそうに何度もうなっていた。何か変だから病院に行こう。」と連れられた病院で私は意識を失いました。

致死性不整脈。「またいつ意識を失うかわからないので、このまま動かないでください。ICU に入院します。」と医師から告げられ、そのまま入院しました。何が何だかわからないまま ICU で過ごし、この先の自分の病状や仕事のこと、生活のことなどを考えると不安に襲われたことを覚えています。あらゆる検査をしても原因は不明のまま、不整脈の部分をカテーテルで治療しましたがすぐに再発するため、手術をして皮下植込み型除細動器を左脇の胸に植え込みました。絶望的な気持ちになり、一人で泣いたことを今でも覚えています。その日から私は「身体障害者」になりました。

のちに医師から、「突然死の原因となる病気で、年間 3 万人気付かれずに亡くなる人がいる。治療につながれたことはとてもラッキーなこと。連れてきてくれた家族に感謝してください。」と言われたことで、少し時間はかかりましたが、前を向いて進もうという気持ちに変化していきました。

当時私が働いていた職場の総務の方が、高額療養費制度、傷病手当、障害年金制度など当時の私の状況で申請できる社会保障制度を、親身になって調べてくださりました。私の仕事は夜勤がある交代勤務でしたが、夜勤は医師から禁止されたため、この身体では以前のような働き方はできないことが予想できました。復職できたとしても体力的な不安も大きく、ひょっとしたら、退職せざるを得なくなるかもしれないと考えていました。

病状が落ち着き、退院後、事前予約をして年金事務所に家族と向かいましたが、その数年前に年金問題が世間を騒がせていたため、私の中で年金事務所に対するイメージは正直良くありませんでした。しかし、事前の電話予約の対応や事務所での手続きは大変スムーズで、そして親切、丁寧でした。手続きが無事に完了するのか、そもそも障害年金を申請できる身分であるのかなど、不安でいっぱいだったのですが、「大丈夫です。おそらく年金は受給できます。」と担当の方から説明されたときは、安堵と感謝の気持ちでいっぱいでした。

その後、対応してくださった方々のおかげで無事に障害年金を受給でき、現在に至っています。

仕事にも復職し、その後自分の中で達成感が得られたため、退職をしました。

働いていた時は、毎月天引きされる保険料額を見て、「自分の年代は老齢年金なんて本当に支給されるかわからないのに。」と、正直プラスのイメージは持っていませんでしたが、今は障害年金の受給者となり、きちんと年金を納めてきて、言葉では足りないくらい本当に良かったと思っています。

人は生きてると、予想もしなかったことが突然起こります。高齢でなくとも、明日も健康でいられる、という保証はどこにもないのです。このことを身をもって経験したからこそ、日本の国民皆保険制度はとてもよく考えられていて、素晴らしい制度だと心の底から実感しています。

いざ、という時の力になってくれる年金制度と、納めることの大切さを、今後何かのきっかけがあるたびに、伝えていきたいと思っています。

誰のためでもない、それはいつかの自分のためだから。